



東京の会通信

No.272

2017年5月1日号
(隔月1日発行)

発行：骨髄バンクを支援する
東京の会

〒162-0065 東京都新宿区

住吉町10-8 第1菊池ビル302号

TEL：03-3354-6377

(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>

e-mail:marrow_tokyo@yahoo.co.jp

定価 100 円

ドナー支援制度、 東京の過半数の区と市で実現へ

骨髄バンクを支援する東京の会は、4月上旬、東京の23区、26市の骨髄移植ドナー支援制度の策定状況と実施状況を担当部署への電話等で調査しました。

その結果、平成29年度当初から12自治体が新たに支援制度を実施することがわかりました。また、今年度中の実施を目指しているのが2自治体に上り、これらが実現すれば既に実施している自治体と合わせて25自治体となり、区、市合わせて49自治体の過半数に達する見通しが出てきました。

○29年度新たに実施した自治体(12自治体)

墨田区、台東区、中野区、江戸川区、新宿区、目黒区、大田区、荒川区、府中市、調布市、青梅市、西東京市

○28年度までに実施している自治体(11自治体)

世田谷区、杉並区、品川区、豊島区、渋谷区、稲城市、町田市、三鷹市、武蔵野市、小金井市、小平市

今回の調査では、23区のうち13自治体で実施することが判明し、区部では半数を超えました。多摩地区の26市については、今年度からの実施自治体も含め、現在のところ10自治体ですが、4月にさかのぼって適用できるよう制度策定を急いでいる自治体もあります。また、『今年度は財政難他』『市の様子を見てから』など、策定にいたらなかった自治体についても、東京の会の要望に沿って検討したことが伺えました。一方、

電話ではなくホームページで調べただけの自治体もあり、その自治体の今年度の動向はつかめていません。

また、ドナー支援制度の利用状況については、平成28年度に実施した11自治体のうち9自治体で33名が支援奨励金を申請していることがわかりました。残りの2自治体については現在までのところ申請がありません。

○利用状況の内訳(4月6日調査時点)

品川区3、世田谷区8、渋谷区4、杉並区9、豊島区1、武蔵野市2、三鷹市2、町田市3、小金井市1、小平市0、稲城市0

※制度を利用した事業所数については、件数が少ないため結果が出そろってから調査予定。

東京都内の骨髄提供者は年間150名余(骨髄バンクデータより)であり、平成28年度で見ますと、制度を利用したのはまだ1/3程度にとどまっています。

このような実情を踏まえ、全都民がこの制度の対象となるよう、東京の会は今年も全力で活動します。当面は、早急に23区26市の過半数にあたる25以上の自治体での実施を目指して、各自治体への要請行動、議会への陳情等を行うとともに、制度未策定の自治体に在住する提供者に不利益が生じないよう、東京都に対しても自治体への働きかけを要請していきます。

(代表 三瓶和義)

日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー (平成29年3月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	470,270	58,393	50,614
2-3月登録分	4,508	375	514
2-3月抹消数	3,595	489	—
実質登録増	913	▲114	—

患者とドナー登録・適合状況(3月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計)	696,041人
ドナー登録抹消者数(累計)	225,771人
HLA適合報告ドナー数(累計)	275,221人
実質登録患者実数(現在)	3,483人(国内1,421人)
HLA適合患者数(累計)	40,369人(患者累計数の79.8%)
非血縁移植実施数	20,547例(2-3月実施238例)

骨髄移植ドナー支援奨励金の受給手続きについて

骨髄移植・末梢血幹細胞移植を提供されたドナーさんと、そのドナーさんを雇用している事業主に対して行われる骨髄移植ドナー支援制度は、提供に伴う時間的・精神的負担に対するドナーへの奨励金と、休暇の付与など当該従業員が支障なくドナーとしての責任を果たせるよう支援する事業主への奨励金の制度です。

2017年2月15日現在、全国で29都府県、206自治体で実施されています。私たちの活動する東京都においては、昨年度までに11自治体が実施していましたが、三瓶代表の報告のとおり、今年度新たに12自治体で実施されることになりました。

当初、自治体によって多少ばらつきがあったのですが、全国的な広がりにつれて、給付内容が提供ドナーに対しては2万円/日、事業主には1万円/日（7日を上限とする）支給に収斂してきているようです。ドナー提供者には14万円、事業主には7万円、合計21万円を限度として支給されます。東京都では、自治体が支援制度を設けて実施する場合、都が2分の1を負担する仕組みとなっています。

このように、全国的に普及してきているドナー支援奨励金制度ですが、提供なさったドナーさんとドナーさんを支えた事業所から申請・請求が行われないと給付されません。東京都内におけるこれまでの支給状況は三瓶代表の報告のとおりですが、実際の申請手続きはどのように行えばよいのか東京都の場合を調べてみました。

①支給要件

ドナー支援奨励制度が実施されている区市町村に住所のあるドナーさんが骨髄・末梢血幹細胞を提供した

場合（提供後）に申請を行うことができます。

②申請時期

提供した日から1年以内（武蔵野市は90日以内）の制限があります。

③申請方法

次の書類を自治体の指定する部署（主に健康福祉部門）に提出します。（提出書類の種類、名称は自治体により異なる場合があります）

〈ドナー本人〉

- 骨髄移植支援事業助成金交付申請書・請求書（ドナー用）
- 骨髄バンクが発行する証明書（注）
- 現住所の分るもの

〈ドナーが従事している国内事業所〉

- 骨髄移植支援事業助成金交付申請書・請求書（事業者用）
- 骨髄バンクが発行する証明書の写し（注）
- ドナーと雇用関係を証明できる書類の写し

（注）骨髄バンクの証明書はコーディネーターを通じて申請

ドナーさんに関わる支援助成制度と給付請求申請手続きの概要は以上のとおりですが、同じように骨髄を提供して時間的・精神的負担を負われたドナーさんが、居住自治体の違いにより一方は支援助成金の交付を受けることができ、一方は受けることができないというのは不公平だと考えています。私達東京の会は、ドナーさんの安全の向上と提供しやすい環境づくりを目指して活動を続けていく所存です。（新田恭平）

今年の東京の会総会・記念講演会は6月24日

前号（3月号）でお知らせしたとおり、今年の定期総会を、6月24日（土）に開催します。東京の会の1年間の活動を報告するとともに、2017年度の活動方針を協議します。また、総会後の記念講演は、昭和大学藤が丘病院小児科の山本将平先生にお願いしています。

山本先生は、15歳から39歳（AYA世代）の思春期若年成人がんの患者支援に積極的に取り組んでおられます。AYA世代は就学、就職、結婚、出産など人生における重要なイベントを控えており、そのサポートが国の課題としても注目されています。当日は先生に

詳しくお話いただくとともに、AYA世代の患者・元患者の方に体験談を語っていただくことも企画中です。ぜひみなさん誘いあわせの上ご参加ください。

日時：2017年6月24日（土） 13時開会

場所：全労済東京会館 3階会議室

講演：総会終了後同会場にて（終了16時30分）

※入場無料、どなたでも参加できます。

ドナー体験がボランティア活動のきっかけに

河合拓朗さん

「緊急!! 骨髄移植・ドナー登録のお願い」

「連合加盟組合員が白血病との診断を受け、骨髄移植が必要となりました。組合員の命を救うためにご協力をお願いします」

会社を超えた連合加盟組合の緊急活動が、2年前のドナー登録のきっかけでした。昔から漠然とボランティア活動などに興味があったが、活動している人をうらやましく見ているだけで、自ら踏み出す勇氣はなく、今まで何も行動を起こしてこなかった自分にとっては、ある意味チャンスで登録に迷いはありませんでした。登録には自分一人で行くつもりでしたが、一応妻に話しをしてみたところ一緒に登録すると言ってくれ、妻の優しい気持ちが嬉しかったです。

そして2年後に患者さんとの一致の通知がありました。もちろん提供にも迷いはありません。通知からドナー決定・最終同意まで、コーディネーターさんの説明通り問題なく順調に進みました。健康診断を受け、自己血採血・入院までの間、生まれて初めて自分の健康に細心の注意を払いました。

初めての入院・全身麻酔・採取と多少の不安はありましたが、目が覚めたら採取終了しており、採取後の痛みも少なく、あっけなく終わってしまいました。また採取した骨髄が患者さんに届いたと知り、すべてが順調に進みこの骨髄提供は終了しました。

私が住んでいる地域はまだドナー助成制度がありません。しかし幸いにも会社にはドナー休暇制度があり、特別休暇で休むことができました。理解ある会社に感謝です。

採取病院については、担当医師・看護師さん、皆さん優しく親切で、不安なく安心して採取することができました。これも感謝です。

そして、この骨髄提供に理解し、応援してくれた家族に感謝です。

今思えば通知から採取までの3ヶ月間は一つの目標に向かって一生懸命でした。

ドナー登録したときは、白血病・骨髄移植・骨髄バンクなど、ほとんど興味がなく、当然知識もありませんでしたが、患者さんとの一致の通知が来たたん急になり始めて、ネットで調べたり、図書館で関連する書籍を借りたり、プロジェクトXのDVDを見たりと、頭の中にはいつも骨髄移植のことばかりでした。

そして同時に万全の状態で採取に向かうために健康を維持し、無事採取完了という目標に向け充実した日々だったと思います。

しかしながら骨髄提供が終了すると、問題なく順調であるがゆえにあっけなく、まだ終わってほしくない気持ちがあり、心にぽかんと穴が開いたようでした。

漠然と興味があったボランティア活動、そしてドナーになれた自分、これからも骨髄バンクの活動にかかわっていきたいと考え、ここは一步踏み出す時だと思い、退院後すぐに骨髄バンクに連絡を取りました。そして、「NPO法人あいち骨髄バンクを支援する会」をご紹介いただき、すぐに連絡を取り、退院の2週間後にあいちの会が参加するイベントに行きました。あいちの会の皆さんとお話しができ、ボランティア活動を決しました。

ボランティア活動を始め、ボランティアの皆さんとお話しすると、自らが患者であった方や、白血病で旦那さんを亡くされた方、小学生だった娘さんを亡くし、ボランティアを続けることが娘さんと繋がっているとおっしゃっていた方、皆さんそれぞれ色々な経験をなされ今に至っていると感じました。

そして採取から2ヶ月後には全国骨髄バンク推進連絡協議会顧問の大谷貴子さん、骨髄バンク移植第一号の田中重勝さんと橋本和浩さんとお会いする機会もありました。

採取後に一步踏み出したことでボランティア活動を始めることができ、多くの新しい出会いがあり、色々学ばせていただいております。そして現在はドナー登録会説明員になれるよう勉強しています。未来のドナー登録者に安心して登録してもらえるよう、自分の経験を伝えていきたいと思います。

まだまだ全ての患者さんが移植できるまでに至っていません。骨髄移植を待つ全ての患者さんにドナーが見つかり、安心して移植が受けられるようになって欲しい。

骨髄提供できたこの健康な体に感謝し、2度目の骨髄提供のためにさらに健康維持していきたいと思っています。



東日本大震災からの復興を引き続き支援します！

3月11日、今年で6回目となる東日本大震災復興支援「防災フェア&チャリティーイベント」が、西新宿角町会主催、東京新都心ライオンズクラブ共催で開催されました。東京の会では、初回からブースを出し骨髓バンクの普及啓発活動を行っています。今年は晴天にも恵まれ、9名が参加しました。

東日本大震災が起こったのと同じ3月11日、新宿中央公園「水の広場」で復興支援イベントがありました。

今年はバザーや物産展など出店数も多い上に、体操や和太鼓の演奏、歌謡ステージなど催し物も華やかでした。起震車での体験コーナーや消防服の試着、防災グッズの展示などもありました。東京の会も参加し

チャリティバザーを行い、更にドナー登録を呼びかけました。

地震から6年の月日が流れ、この日は人のつながり、家族の絆の大切さをあらためて感じる日でもあるかと思っています。私たちの活動も人のつながりがとても大切です。

この日新宿区長からドナーへの助成金制度を実施しますとうれしいお話を伺いました。東京での助成金要請活動が、人と人とのつながりで東北へも良い形で行っているかもしれません。

震災で今も大変な思いをしている方が平穏な暮らしを過ごせますようお願いしています。(櫻井洋子)

今年も南アルプス桃源郷マラソンで完走！

毎年4月の第2日曜日、桃の花が満開のこの時期に「南アルプス桃源郷マラソン」が開催されます。メンバーの一人が転勤で山梨県在住となったことをきっかけに、東京の会メンバーが出場し始めて4年目。応援団も組織され、骨髓バンク支援の黄色いたすきを掛けた6名のランナーがエントリーしました。

今年の気候はなかなか気温が上がらず、おかげで桜と桃の両方が満開となる絶景でしたが、何んとレースの時間帯は大雨！しかしそんな天候にも負けず、全身

ずぶぬれ、靴もぐしょぐしょの最悪のコンディションの中、全員時間内に完走できました。

9歳で骨髄移植を受け慢性骨髄性白血病を克服した宮城順さんは、ハーフマラソンで初の3時間切りという目標も達成しました。骨髄移植を受けてから今年で28年。様々な後遺症に悩まされつつも、マラソンを通して啓蒙活動が続けています。「みたまの湯」にゆっくり浸かった後の大宴会では、皆で祝福の乾杯！次号では宮城さんからのメッセージを頂く予定です。

来年は皆さんも一緒に走りませんか？応援団も募集！
(若木 換)



応援の美女軍団



午後から晴れて良い天気！

心のこもったご寄付ありがとうございました。(2017.2.16～4.15)

山崎治夫さん 2,000円／池田あゆみさん 14,000円／桜井正和さん 2,000円／匿名 5,000円
石山ナナさん 2,000円／水流正秀さん 7,000円／若林秀子さん 10,000円／小椋 清さん 5,000円
三瓶和義さん 800円／3・11震災復興支援イベントの募金 6,428円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。

東京ドナー登録会予定(5月・6月)

5/19(金) 杉並区役所(杉並区)

6/14(水) 赤羽駅東口(北区)

11月3日はバラのかおりのコンサートへ！

ゴールデンウィークが終わったばかりで、少し早いですが、秋のご予定はお決まりでしょうか？

東京の会では今年もバラのかおりのコンサートを開催します。25年目を迎えるヴァイオリン、チェロ、ピ



昨年、一昨年に引き続き、ピアノの高田匡隆さんが参加して下さいます。

アノによる三重奏コンサート。今年は連休初日となる11月3日（金・祝）に行うことが決定致しました。

毎年好評のバラの花束や手作りバラグッズとともに、素敵なクラシック音楽に包まれながら過ごす祝日の午後。是非今からご予約に入れていただき、当日はたくさんのお客様にお出でいただけることを願っています。

日時 2017年11月3日（金・祝）14:00開演（予定）

場所 発明会館ホール

（地下鉄虎ノ門駅より徒歩5分）

出演 ヴァイオリン 三戸 素子

チェロ 小澤 洋介

ピアノ 高田 匡隆

曲目 未定

※詳細は決まり次第、東京の会通信及びホームページ、Facebookなどでお知らせ致します。

2017年度「献血ルームドナー登録推進活動」

東京の会が継続して行ってきた献血ルームでのドナー登録推進活動は、今年度も献血ルームのご協力のもと、右記のスケジュールで実施することが決まりました。週末の献血希望者数が都内でも特に多い2ヶ所のルームでの活動は、受付から採血までの流れを邪魔しないように、今まで何度も意見交換を重ねながらノウハウを積み上げてきました。今年も献血にいらした方への骨髓バンク普及広報活動およびドナー登録説明、街頭での献血の呼び掛けなど、献血ルームとも協力しながら来場者数アップとドナー登録者数の増加に努めます。

今年度の目標は、全7回で総登録者数120名を目指します。（松下倫子）

2017年度活動予定

- 2017年 5月13日（土）有楽町献血ルーム
- 6月10日（土）新宿東口献血ルーム
- 7月8日（土）有楽町献血ルーム
- 10月14日（土）新宿東口献血ルーム
- 12月9日（土）有楽町献血ルーム
- 2018年 1月20日（土）新宿東口献血ルーム
- 2月17日（土）新宿東口献血ルーム

東京の会 「5月、6月定例会」 のお知らせ

5月20日（土）、6月17日（土）午後5時30分より

会場：全労済東京会館3階会議室

※JR新宿駅西口下車7分（新宿区西新宿7-20-8）

※地下鉄丸の内線西新宿駅下車1番出口徒歩2分

青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドウ」角入り右側

※7月定例会予定・7月22日（土）午後5時30分より

7月会報発送 「おりおり」のお知らせ

6月の「おりおり」はありません！

会報が隔月刊となったため、発送作業も奇数月のみとなります。

7月1日（土）13時00分より

※13時までは品川運輸さんが使用されています。13時以降にお越し下さい。

場所：品川運輸・4階会議室（品川区東大井2-1-8）

JR大井町駅徒歩8分・京浜急行鮫洲駅徒歩2分

※今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入して発送します。簡単な誰にでも出来る作業です。いつも人手が足りません。どうかご協力を。

※9月「おりおり」予定・9月2日（土）13時00分より

新しい方大歓迎です。お気軽においで下さい。お待ちしております。

編集者 雑記

▼毎年3月20日は、国連が「世界幸福デー」と定め、2012年から毎年国連の調査による世界幸福度報告書が発表されています。日本は幸福な国なのか？ 気にかかって2017年3月20日に発表された報告書を覗いてみることにしました。

▼今回2017年は155か国を対象に調査されました。評価要素は①人口あたりのGDP、②社会的支援、③健康な平均寿命、④人生の選択をする自由、⑤男女の平等性、⑥社会の腐敗度をポイント化して評価されています。2017年、2016年のランキングの10位までを表示すると次表のとおりです。

順位	2017年	2016年
1	ノルウェー	デンマーク
2	デンマーク	スイス
3	アイスランド	アイスランド
4	スイス	ノルウェー
5	フィンランド	フィンランド
6	オランダ	カナダ
7	カナダ	オランダ
8	ニュージーランド	ニュージーランド
9	オーストラリア	オーストラリア
10	スウェーデン	スウェーデン

日本は2017年51位（2016年53位）でした。

▼2016年、2017年とも順位は異なるもののベスト10に入っているのは同じヨーロッパの国々です。社会の民主化が進み、生産技術、医学・衛生管理水準が高く、教育制度が整備されたヨーロッパの国々が高く評価され、中でも社会保障制度が整い、国民に社会的支援に対する信頼感が強く、また労働時間がきちんと管理され、社会全体にゆとり感の強い国々が並んでいます。

▼世界幸福度ランキング調査にはもう一つ別の調査があります。アメリカの世論調査会社ギャラップ・インターナショナルがWINと共同で毎年行っている幸福度調査です。対象国数は66か国と国連調査より小規模ですが、純粋幸福度（「幸福を持っている人の比率」

ー「不幸感を持っている人の比率」）を調べている点で特長があります。2017年の調査結果は次のとおりです。

1位	フィジー (89)
2位	フィリピン・中国 (79)
4位	ベトナム・インドネシア (78)
6位	パナマ・パプアニューギニア (77)
8位	パラグアイ・バングラデシュ (74)
10位	アルゼンチン・メキシコ (72)

▼因みに日本はこの調査では25位（55）、その他の先進7か国は、カナダ29位（50）、アメリカ33位（48）、ドイツ37位（46）、フランス44位（43）、イタリア52位（38）、国連調査上位のアイスランド13位（70）ノルウェー・デンマーク同順22位（56）、スウェーデン26位（54）、フィンランド52位（38）となっています。

▼ギャラップ調査の上位ランクの国々の共通点を見ると、工業化が過度に進まず、農村人口の都会への流出が進んでいない血縁社会の要素が残る国々が多いように思われます。これらの国々では家族色の強い社会が一人一人を支えており、人は社会の中での役割認識が明確で孤立感を持たず、周囲との連係感が強いのです。このような精神環境においては、個人の幸福感が先進工業化社会より強くなるのではないのでしょうか。

▼先進工業化社会においては大都市への人口集中が進み、家族が分断され、人が何か問題に出遭って、相談したい、助けが欲しいと思ったときに血縁社会のようにすぐに支援を得られないのです。大都市へ若年・壮年人口が流出した農村や地方都市は高齢化が急速に進んできたのはわが国だけの現象ではないでしょう。

▼私達ボランティアは、いろいろな分野で、社会の仕組みの中にある隙間を見つけ埋める活動をしています。その隙間のために不利益を蒙り苦しむ人たちの支援と新たな隙間の発生を防止する活動を行っているのです。国や自治体への法律条例制定の働きかけであったり、制度の新設や改善であったり、募金活動であったりします。私たちボランティアの活動が人々の孤立感を取り除き、社会の支援への信頼に満ちた幸福感が得られるものとなるよう願ってやみません。(k)

ご寄付と会費の納入、そして絵はがきや書籍・テレホンカードの購入は郵便振替にてお願いいたします。
皆様からの善意をお待ちしております。

ボランティアの運動にも資金が必要です。 東京の会に活動資金のカンパを！

郵便振替口座番号 **00100-1-555195**
他銀行から振込みの場合 ゆうちょ銀行(9900) / 〇一八支店(018) 普通口座No.4180512
加入者名義 **公的骨髄バンクを支援する東京の会**